

図書館だより

2017年7月1日発行



まんき 涼果 さんの 作品 (平成28年度市長賞受賞・住吉中学校3年)

本は私をいつだって色々な世界につれて行ってくれる。本を開くとたくさんのものが私を物語のなかへ引き込んでくれる。私にとって「本」というものはそう見えた。だから、そのイメージを白紙に描いてみました。

第187号

坂戸市立図書館

いにしえ 古の歴史(申世)を探してみよう!

坂戸の古道・遺跡巡り その2

入西編

幾年生きる人々たちは、時代によって生活や文化が大きく変化してきました。そして、現代に生きる私たちは、どんなに文明の力の中にあっても忘れてはいけないもの、それは先人たちの創り上げてきた歴史です。時には、その昔に想いを馳せてみてはいかがでしょうか…。

古道・遺跡巡り(その2)は鎌倉街道の上道から延びた枝道の周辺に当時から存在する道・寺・神社を紹介します。



※ 上記、場所(①~⑦)の紹介 ※

① 【東和田の枝道】

東和田運動公園に入っていく細道 →



←東和田と高坂(東松山)に抜けていたという越辺川の樋の口橋付近。



② 【戸口の枝道】

龍福寺東側付近

地元の方の話…「鎌倉街道の真ん中で〜♪」と歌いながら遊んだそれを地藏さんが見ていたヨ〜…



③ 【北浅羽の万福寺】



鎌倉時代に活躍した浅羽氏（武蔵七党の一員、北浅羽付近を本拠地に勢力を持った豪族）の菩提寺。

（埼玉県指定文化財）



←板碑
浅羽氏が祖先の霊を弔うために建立したもの。
1307年
（鎌倉時代の特徴をもっている）



④ 【新堀の金山神社】

入西小学校北側



鑄物の里、金井遺跡（鎌倉時代後期から南北朝時代にかけての鑄物遺跡）に係わる火を使う職人の神である、「金山彦の命」を祭ってある神社。

（埼玉県指定天然記念物）

ステゴビル



神社の隣に保護されている、ゆり科の多年草、ここと秩父の二か所に自生する珍しい植物。（9月中～下旬に開花する）

⑤ 【北大塚の石上神社・ビャクシン】 通称 ねじれっ木

（埼玉県指定天然記念物）

樹齢650余年となる、幹が右曲がりになじれていることから「ねじれっ木」と呼ばれている。鎌倉時代に鎌倉五山の住職にいた高僧が、近くにある、成願寺を創建（現在は滅失）したと言われており、もとはその寺に植えられたものが現在に移された。

<高さ約12メートル、目通り約3.5メートル>



⑥ 【小山の枝道】

三福寺前を通る東西に伸びた道



⑦ 【小山の三福寺】

もくそうやくしによらい
木造薬師如来
（埼玉県指定文化財）



東方飛来の薬師といわれる。檜の寄木造り。鎌倉時代に活躍した仏師の作である。天正1590年、兵火により寺が焼失した際に、自ら飛んで焼失を逃れたが、一部に火傷をおったと伝えられる。全身漆塗りでおい、金箔が施されている。

中世のさかど
坂戸市教育委員会／編・出版
坂戸の歴史を分かりやすく紹介しています

中世のさかど
参考資料

坂戸の土地は掘り起こせば、埴輪や土器が出土すると聞いてはいましたが、調べたり、訪ね歩いて取材してみると、思ったよりすごい歴史ある地なのだと、改めて気づかされました。これからも坂戸の歴史を大事に後世に残していって欲しいと願っています。



中世にまつわる本の紹介



今回は中世（鎌倉・室町・戦国）時代を紹介します。

<絵本>

よしつね べんけい
義経と弁慶 谷 真介著／ポプラ社

奥州の藤原秀衡のもとで成長した義経が、京で弁慶と出会い源氏再興をなしとげながら、最後は平泉で悲運の死をとげるまでを描く。「義経記」をもとにした義経と弁慶の英雄物語。



応仁の乱 戦国時代を生んだ大乱

呉座勇一著／中央公論新社



室町時代はなぜ自壊したのか？
室町後期、諸大名が東西両軍に分かれ京都を主戦場として戦った応仁の乱。
日本屈指の乱を読み解く…。

鎌倉・室町ことば百話

森野宗明著／東京美術

中世の時代相の一端を、いろいろな言葉をいわば小窓として、垣間見ていただくことをねらいとした。



東日本戦国

史料館&博物館ベストガイド

戦国歴史文化研究会著／メイツ出版

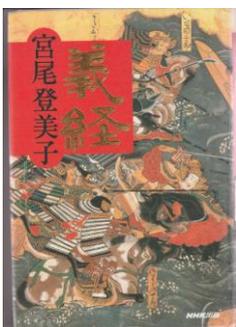
戦国乱世を駆け抜けた名将・偉人たちの足跡を辿る文献や、資料が保存されている東日本の史料館や博物館を、展示物の解説や豊富な写真とともに紹介。中部・関東・東北を代表する戦国大名たちについてのコラムも収録。



義経

宮尾登美子著／NHK出版

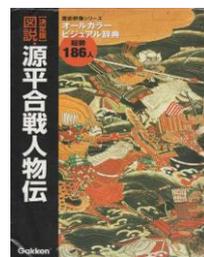
強く美しく時代を駆け抜けたひとりの男がいた。この男をめぐる女たちの羨望と、男たちの嫉妬が怒涛のようにはずれまいた…。宮尾登美子が書き下ろす哀しくも華麗な歴史物語。



図説・源平合戦人物伝

学習研究社

将門・義家から清盛・頼朝・義経・奥州藤原氏まで。平家の栄華と盛衰、源氏の台頭と確執を彩った人物、総勢 186 名を一挙掲載したオールカラービジュアル辞典。この一冊で、源平合戦がますます面白くなる。



戦国大名と読書

小和田哲男著／柏書房

戦国武将の幼年時代、少年時代の教育・読書歴は、その後の人間形成にどのような影響を与えたのか。領国経営から、合戦の方法、外交術、家臣の教育まで彼らの独自性や世界観を読書遍歴から明らかにする。

追悼 飯高節子氏（初代中央図書館館長）

初代中央図書館長の飯高節子氏が、今年3月に逝去されました。図書館の基礎を築かれ、坂戸の文化の振興に大きな足跡を残された飯高氏を偲びここに追悼いたします。

現在も図書館に貢献してくださっている3名の方に追悼文を寄稿いただきました。社会の変化によって、図書館に求められることも少し変わった部分がありますが、飯高氏が目指していた、市民と共に図書館があることは変わりません。飯高氏の図書館づくりの情熱や職員への愛情を忘れることなく、図書館をさらに充実させていくことが、厚恩に答える唯一の方法かと思います。飯高氏のご冥福を心よりお祈りいたします。



飯高節子先生（元館長）を偲んで

図書館協議会委員 荒井 敏子

飯高節子先生の訃報を伺って、早や三か月が過ぎようとしています。その知らせを受けた時、寝耳に水とはこのことか、と一瞬耳を疑いました。

私が飯高館長との出会いを頂いたのは、昭和53年4月、図書館主催の児童文学講座を受講してのことでした。以来読書会で飯高館長の御指導を受け、数多くの文学作品に触れることができました。図書館ボランティアが生まれたのもこの頃でした。先輩のメンバーと共に最初は、書架整理と掃除から始まりました。

昭和57年9月18日、移動図書館レインボー号が初めて坂戸市に走りました。これは図書館から遠い地域の子ども達に、本が利用できるようにとの飯高館長の強い信念が、行政を動かし実現したことでした。あの時満面の笑みを浮かべ、子ども達に対応していた館長のお姿を、今でも鮮明に思い出されます。その後、館長指導のもとに、ボランティア組織の協力員連絡会が発足。地域では子ども達が紙芝居を楽しみに待っていました。これは移動図書館が廃止する平成16年まで続けられました。現在、大勢のボランティアが、図書館、高齢者施設、保育園で活動しています。その原点は、当時の館長の指針が、その後も職員の努力、市民の協力によって引き継がれているからだと思います。

昭和59年7月1日中央図書館オープン、待ちに待ったこの日、飯高館長がこの日を迎える為にどれ程の日時を費やしてこられたか、そのご苦勞は計り知れないものがあつたことと思います。しかし、今は亡き飯高館長のお考えが、館内にはそこそこに見られます。学問をあらわす女神の像、稔りを象徴する壁の色、大川平三郎展示室等…。私はこれからも図書館の良き利用者として、学び続けていきたいと思ひます。

館長は国文学者としてのお立場で、古典文学講座（万葉集・源氏物語・徒然草・古事記他）を持たれました。三十年以上もの長い間学習の場を頂いたことに心から感謝申し上げます。

飯高先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。





飯高節子館長を偲んで

清の実会 中村 崇子

先生は13年にわたって坂戸市立図書館長をつとめられ、図書館の在り方について、その基礎を築かれました。豊かな教養と知性そして果敢な行動力をお持ちでした。

昭和62年（1987）7月、本好きの人たちが図書館のために役立ちたいと集まり、図書館で初めてのボランティアグループ「清の実会」が発足しました。以来、その歩みは寄贈本の整理、芥川賞受賞作の拡大字本の作成、図書館行事のサポートなどさまざまな活動を行ってまいりました。現在は布の絵本作りと本の修理活動が主になっております。振り返れば、いつも先生が傍らにいてくださって、にこやかに時には厳しく適切なお助言をいただきご指導くださいました。

ご訃報に接し、かけがえのない文化を喪った思いをつよくしましたが、先生がこの地に播かれた種は、いくつも根付いて花を開き広がっております。

先生、長い間本当にありがとうございました。吉祥天女像のような優美で堂々としたお姿が思い出され、「皆さん、頑張ってるね！」という明るいお声が聞こえてきそうです。



生涯の師 飯高節子先生

大川平三郎を広める会 宮崎悦子

坂戸市の文化向上に尽力された、飯高節子先生に哀悼の誠を捧げます。

先生の坂戸市立中央図書館長として初めての仕事は、大川平三郎翁について調べることであったと伺いました。坂戸出身で「日本の製紙王」と言われた大川平三郎翁。先生は職員と共に紙の博物館へ何度も足を運び、資料を書き写したそうです。その熱意と労を評価され、大川翁の大切な資料は、坂戸市の宝となり、所蔵の資料はデジタル化されました。

私達は、製紙業に携わる技師としてだけでなく、何よりも人を大切に、人を育てることに傾注した大川翁を継承していく必要があることをご指導いただきました。大川翁について学び、紙芝居・リーフレット・入学おめでとうファイル・一般向けファイル・児童書等を作成致しました。新一年生への入学おめでとうファイルの贈呈は今年で九年目を迎えました。始めた頃から、十年は続けましょうという先生の想いを、しっかりと継承していくべく精進し、会の仲間と少しずつでも前進し、大川翁を広める活動をして参ります。

先生は私にとって生涯の師であり、時に母のような存在でした。お顔を拝見すると、ホッとすることができ、相談事も聞いていただきました。もっと学んでいたかった。あの素晴らしい講義を聴くことが出来ないこと、残念でなりません。講義では、人としてどうあるべきか、自分自身で考え行動することが大切と、教えていただきました。先生は、常々「歴史を学ぶのではなく、歴史に学ぶのです。また論語を学ぶのではなく、論語に学ぶのです。そして生涯学び続けることが大切です」と仰られました。先生より学んだことは勿論のこと、史実や名著に学び、生涯学び続け、しっかりと自分磨きに努めて参ります。

どうか安らかに眠りください。先生との出会いに感謝、ご指導有難うございました。

※ 公職を引退するにあたり、寄贈いただきました蔵書を飯高文庫として開設し、貸出しています。